

育林部の研究概要

1. はじめに

育林部は、長野県森林・林業の長期構想に基づき、森林資源の整備、森林の保全を目的に試験研究に励んでおります。

2. 現在の研究の概要

現在進めております研究は、育種育林関係では、「複層林の造成管理技術の開発」、「広葉樹林の造成と利用に関する研究」、「組織培養によるカラマツ及びコナラ等の増殖技術に関する研究」を、森林の病虫獣害防除関係では、「スギ・ヒノキ材質劣化害虫防除に関する総合研究」、「マツ枯損の激化抑止技術」、「野生獣類による新たな森林被害の防除法確立のための基礎調査」を行っております。

この他に担当している主な業務は、「森林施業体系に関する調査研究」、「酸性雨等森林被害モニタリング事業」、「土地分類基本調査」、「松くい虫防除対策事業」、「種子発芽試験」、「苗木養成」等です。

次に個々に若干説明しますと、

(1) 複層林の研究は、主に光環境と下層植物の生長、伐採方法と下木の損傷に視点を置いて行っております。

アカマツを上木として複層林を造成する場合は、研究2年目のため、まだ資料不足ですが、上木伐

採時の下木の損傷が大きく、複層林として造成してよいものか今後なお究明する必要があります。

(2) 広葉樹林の造成研究は、元年度はミズナラ、イヌエンジュ、オオヤマザクラ、カツラの4樹種について、本年度はブナ、ミズメ、シバグリ、ヤマザクラ、サワグルミの5樹種について、低照度と生長という面から検討しております。

(3) 組織培養による増殖技術の研究は、キノコ原木として優良形質のコナラ・クヌギ、ネジレの少ないカラマツ、松くい虫に対して抵抗性をもつアカマツを、選抜し増殖することを目的としておりますが、現在はコナラ・クヌギを中心に選抜、作出を行っております。

(4) スギ・ヒノキの材質劣化害虫防除の研究は、被害が拡がりつつあるスギノアカネトラカミキリを対象にしております。

せん孔性害虫は防除が難かしく、スギノアカネトラカミキリも現在のところ、まだ適確な防除法が見つかっておりません。

ただし、枯枝をつくらなければ予防できますので、早目の枝打ちを奨励しています。

現在は誘引器を使った誘引効果調査を行っております。

(5) マツ枯損の激化抑止技術は、松くい虫防除の研究で、現在は薬剤を使わない、鳥類、微生物等の天敵を利用する方向に進んでおります。

(6) 野生獣類による森林被害防除の研究は、サ

ルによるシイタケの被害を回避する方策を確立することを目的としており、先ず辰野町と大桑村で、サルによる被害実態及びその区域での生息数を把握することから始めたいと思っております。

その他今年度から

(7) 酸性雨等森林被害モニタリング事業を実施することになりました。

これは全国一斉に酸性雨の有無及び被害状況を調査するもので、全国で1200の定点を、当県も34の定点を、それぞれ5か年で調査します。

今年度は当県は、8定点を設定して、雨水、葉、土壌等の調査をすることになりましたが、当センターは、このうちの山形村定点の調査を分担するとともに、県下全域の調査の技術指導を担当しております。

3. 次年度からの研究

県民の皆さんのニーズが多様化してまいり、研究内容も多岐にわたっておりますが、次年度からは、これまでの研究・業務に、予算等許される範囲で次の課題を逐次加えて、研究にまい進してまいりたいと思います。

- (1) スギ花粉抑制法の解明
- (2) 治山及び環境保全林緑化工における最適草本及び木本類の解明
- (3) 森林の気象災害に関する調査研究
- (4) 林木育種に関する調査研究
- (5) 森林の水源かん養に関する調査研究
- (6) 人工酸性雨による植物体と土壌の変化に関する研究（カラマツを中心として）

（育林部 遊橋）